

# 中期目標の達成状況に関する評価結果

(4年目終了時評価)

大分大学

令和3年6月

大学改革支援・学位授与機構

# 目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
《概要》	4
《本文》	5
《判定結果一覧表》	15

## 法人の特徴

### 大学の基本的な目標（中期目標前文）

本学は大分大学憲章に則り、国際化が進む社会及び地域のニーズに的確に対応できる豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、大分県唯一の国立大学として「大分創生」を目指し、これまでに蓄積してきた知的資源を最大限に活用した教育・研究・医療・社会貢献活動を積極的に展開し、もって地域活性化のための「知」の拠点としての機能の高度化を推進する。

#### 1) 社会が求める高い付加価値をもった人材の養成

能動的な学修を通して高い専門的知識を修得するとともに、グローバルかつインクルーシブな視野をもって自立的・創造的に社会に貢献し、次世代を生き抜く力を持った人材育成を行う。同時に今後の18歳人口の推移等に留意しつつ、時代や社会のニーズ等を踏まえた不断の大学改革と教育研究組織の見直しを行う。

#### 2) 「知」の拠点としての機能の高度化

大分県を中心とした地域との産学官連携等を深化させ、本学が持つ教育の研究成果や様々な資源を活用し、社会にイノベーションをもたらすような「地域における知の創造」の実現を図る。独創的・先進的な研究分野においては世界に通じる研究拠点を形成するとともに、研究成果を社会に還元する。医療分野においては、幅広い専門知識を有した医療人、医学研究者を育成するとともに、高度先進医療を展開することを通じて、地域における拠点としての役割を果たす。

#### 3) 新時代のガバナンス体制の構築による戦略的大学の経営の実現

社会情勢に的確かつ迅速に対応することにより、大学としての社会的責務を果たすとともに、戦略的な経営を進めていくために、学長のリーダーシップが発揮できる運営体制の確立とそれを支える人材の育成、並びに安定した財政基盤の構築を目指す。また、女性教職員の活躍推進を図るなど、ダイバーシティ社会を実現する大学の経営を目指す。

### (法人の特徴や特色)

#### 1. 沿革等

本学は、大分高等商業学校、大分師範学校、大分青年師範学校を前身とする旧大分大学と旧大分医科大学の統合によって平成15年に発足した。

第3期中期目標期間の初年度である平成28年度には、福祉健康科学部の設置、教育福祉科学部の教育学部への改称、教育学研究科に教職開発専攻（教職大学院）を設置するとともに、工学研究科の博士前期課程及び後期課程をそれぞれ1専攻に整理した。さらに、平成29年度は、工学部を理工学部へ改組し、経済学部へ社会イノベーション学科を設置し、令和2年度に福祉健康科学研究科を設置したことで、現在は、教育学部、経済学部、医学部、理工学部、福祉健康科学部の5学部と、各学部を基礎とする5研究科により構成されている。

且野原キャンパス（大分市且野原）に教育学部・経済学部・理工学部・福祉健康科学部、挾間キャンパス（由布市挾間町）に医学部、王子キャンパス（大分市王子新町）に附属学校園を配置し、3つのキャンパスは教育研究活動の展開に適した環境を備えている。

大分大学憲章（平成16年制定）には「人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する」ことを基本理念として掲げており、21世紀における知識基盤社会で活躍できる自立した人材を育成し、地域の拠

点大学として地域社会とともに発展し、これらを通じた特色ある大学づくりを目指して諸事業に取り組んでいる。

## 2. 学部等の構成

学 部：教育学部、経済学部、医学部、理工学部、福祉健康科学部

研究科：教育学研究科、経済学研究科、医学系研究科、工学研究科、福祉健康科学研究科

### [個性の伸長に向けた取組 (★)]

- 学生の多様なキャリア形成や就職に対する意識向上、及び学生が現場の状況を理解することができるセミナーを実施するなど、学内外の機関と共同でキャリア開発メニューの充実を図った。  
また、既存の授業の内容を見直し、PBL形式での取組を導入した結果、授業の中で学生が企画したプランが商品化され、企業との連携においても大きな成果を上げることができた。  
学生のキャリアの充実と就職試験に向けての力量向上を目的とし、キャリアプランを見据えた上で実践的な教育を行った結果、競争倍率の高い難関企業の内定を獲得している。  
(関連する中期計画 1-3-1-1 【11】)
- 異文化理解、国際的視野での情報活用能力、英語によるコミュニケーション能力の向上を図ることを目的として、本学の日本人学生と留学生が一緒に受講する「大分大学国際フロンティア教育プログラム」を平成 30 年度に開設した。本取組によって留学生との交流が充実し、学内のグローバル教育の推進に大きく寄与している。  
(関連する中期計画 1-1-1-1 【1】、4-1-1-1 【29】)
- 九州北部豪雨の被災地へ「学生災害ボランティア」を派遣した経験に基づき、平成 30 年度から「学生災害ボランティア講習会」を開催しており、講習会の受講を「学生災害ボランティア隊員」を認定する必須条件とした。また、講習会等の実施によって、学生はボランティア活動への関心を高めるだけでなく、ボランティアにとって必要となる高度な実践的知識や技能を身に付けることに大きく寄与している。  
(関連する中期計画 1-3-1-2 【12】)
- これまでに高等学校と大学で実施してきた高大接続事業に加え、大分県教育委員会と連携したスーパーグローバルハイスクール (SGH) やスーパーサイエンスハイスクール (SSH) のほか、文系・理系の高校生向けの遠隔配信 (オンライン) 授業を年間 16 回実施し、大学レベルの教育に高校生が直接に触れる機会を提供し、高い評価を得ている。  
また、教育委員会、県立学校校長協会総会、各高等学校に積極的に出向き、入学者選抜改革や講演会を実施したことで高校関係者からの理解が深まった。  
(関連する中期計画 1-4-1-1 【14】、1-4-1-3 【16】)
- 実績のある内視鏡診断に係る研究成果を中核とし、本学が中心となって構成した国内約 30 の国公立大学による「アジア内視鏡人材育成支援大学コンソーシアム」を通じ、低侵襲医療の国際展開を促進している。  
(関連する中期計画 2-1-1-1 【17】、2-1-2-1 【19】、4-1-2-1 【32】)
- 狂犬病研究、ピロリ菌研究など本学がトップを走る「国際感染症研究」であり、これまでの SATREPS、研究拠点形成事業など大型国際共同研究を展開している。  
(関連する中期計画 2-1-1-1 【17】、4-1-1-3 【31】、4-1-2-1 【32】)

- 防災・減災復興デザイン教育研究センター（CERD）を中心とし、包括協力協定を締結している大分県や市町村、地元企業等との連携により、防災シンポジウム等の安全安心社会形成のための取組を地域社会と協働して実施している。  
（関連する中期計画 3-1-1-3 【26】）
  
- 「竹の次世代素材化研究」と事業創造が推進されており、竹からカーボンナノファイバーを作るオンリーワンの技術「大分大学プロセス」を開発している。この取組は竹の利活用による“環境保全と産業・地域振興”が期待できる取組である。  
（関連する中期計画 2-1-1-1 【17】、2-1-1-2 【18】、2-1-2-1 【19】）

[戦略性が高く意欲的な目標・計画（◆）]

- 福祉と医療の連携を基礎とした地域包括ケアシステムを支える研究コミュニティを形成し、文系医系融合型の新たな研究領域を創生する。  
（関連する中期計画 2-1-2-3 【21】）

## 評価結果

### 《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況（4年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、大分大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

### ＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を上げ ている	【3】 進捗している	【2】 十分に進捗している とはいえない	【1】 進捗していない
<b>I 教育に関する目標</b>	<b>【3】</b> 順調に進んでいる					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	<b>【3】</b> 順調に進んでいる			1		
2 教育の実施体制等に関する目標	<b>【3】</b> 順調に進んでいる			1		
3 学生への支援に関する目標	<b>【3】</b> 順調に進んでいる			1		
4 入学者選抜に関する目標	<b>【3】</b> 順調に進んでいる			1		
<b>II 研究に関する目標</b>	<b>【3】</b> 順調に進んでいる					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	<b>【3】</b> 順調に進んでいる			2		
2 研究実施体制等に関する目標	<b>【3】</b> 順調に進んでいる			1		
<b>III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</b>	<b>【2】</b> おおむね順調に進んでいる					
	なし			1	1	
<b>IV その他の目標</b>	<b>【3】</b> 順調に進んでいる					
1 グローバル化に関する目標	<b>【3】</b> 順調に進んでいる			2		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

## 《本文》

### I 教育に関する目標（大項目1）

#### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、4項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

#### 2. 中期目標の達成状況

##### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
地域社会のニーズに対応した次代を担う人材養成を行うとともに、グローバルかつインクルーシブな視野をもって高い専門的知識を自立的・創造的に活用できる人材を養成する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がおおむね「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》 (優れた点) ○ 教育学部の高い教員就職率 平成28年に改組・改称した教育学部では、教員就職への意識付けと実践的能力を向上させた結果、令和元年度卒業生は公立学校教員採用試験において、過去最高の合格者数（97名）、合格率（82%）を記録している。平成27年度から平成30年度卒業生の正規教員就職率は常に全国4位以内（文科省公表資料より）に入り、全国的にも高い水準を維持している。（中期計画1-1-1-4）		

	<p>(特色ある点)</p> <p>○ アクティブ・ラーニングの推進</p> <p>自立的・創造的に活用できる人材を養成するため、能動的学修（アクティブ・ラーニング）の取り入れを進め、能動的学修のタイプ分類やガイドラインを作成、教員相互の授業参観や地域の大学等で連携した合同FD活動を開催している。これらの取組の結果、令和元年度における能動的学修を取り入れた授業科目比率は、当初の目標である80%を上回る96.5%となっている。（中期計画1-1-1-3）</p> <p>○ 教職大学院の高い教員就職率</p> <p>平成28年度に設置した教職大学院では、FD活動の充実に力点を置き、課題解決型の教育、教員としての地域課題解決能力を向上させる教育、フィールドワーク、ロールプレイ、事例研究、アクションリサーチ等の実践的方法を取り入れた互いに学び合う教育を進めることによって、現職教員を除く教員就職率は第3期中期目標期間を通じて100%となっており、地域社会のニーズに対応した次代を担う高い専門的知識を自立的・創造的に活用できる教員を養成している。（中期計画1-1-1-6）</p> <p>※ 中期計画1-1-1-5については、大分県における小学校教員の占有率において、当該県における採用状況という外的環境要因等が大きく変化したため、このような状況を勘案して本小項目を総合的に判断した。</p>
--	---



## (2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
<p>社会の変化や人材に対するニーズの変化に対応して、教学体制の改革を行い、学修評価を通じて教員の教育力向上、教育の質保証、教学支援の充実を推進する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 学部・研究科の再編            平成28年度には、福祉健康科学部の設置、教育福祉科学部の教育学部への改称、教育学研究科に教職開発専攻(教職大学院)を設置するとともに、工学研究科の博士前期課程及び後期課程をそれぞれ1専攻に整理している。さらに、平成29年度は、工学部を理工学部へ改組し、経済学部には社会イノベーション学科を設置し、令和2年度には福祉健康科学研究科を設置している。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育            新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、実験・実習を除く全科目でオンライン授業を実施し、オンライン授業に向けた情報サイトの構築や、テレビ会議方式及びオンデマンド型によるオンライン授業のFD・SD研修会の開催、教材作成及びZoomやMoodleを活用した授業マニュアルの作成と公開等を行っている。また、学生の情報環境を確認し、環境が整っていない学生のために、学内施設の開放や情報機器の貸し出し体制も整えている。オンライン授業では、導入済みのラーニング・マネジメント・システム(LMS)を利用することで、学生及び教員の負担を減らす仕組みとし、セキュリティにも配慮した。LMSのより進んだ使用方法の導入や、対面を基本とする実験科目のリモート化を行うなど、新しいICTの活用方法も開発している。前学期終了時の全学生を対象</p>		

	にしたアンケート調査では、8割以上が「オンライン形式の授業でも学修に支障がなかった」と答えており、また、7割以上が「オンライン授業に満足している」と回答している。
--	---

**(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)**

<p><b>【評価結果】</b> 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-3-1	判定		判断理由
学生の多様性と主体性を踏まえた学生の学びを支える支援体制を強化するとともに、学生の正課外活動への支援を推進する。	<b>【3】</b>	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

**(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)**

<p><b>【評価結果】</b> 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
---

小項目 1-4-1	判定		判断理由
学習意欲が高く主体的・能動的に行動する優秀な学生を確保するとともに、多様な人材を受け入れるために、アドミッション・ポリシーに基づいて多面的、総合的な評価、選抜方法を構築する。また、主体性、協働性をもつ高校生を育成するため、高大連携推進事業を更に強固に推進する。	<b>【3】</b>	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

## Ⅱ 研究に関する目標（大項目 2）

### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

### 2. 中期目標の達成状況

#### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 2-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
本学の強みとなるミッションの再定義に掲げた重点領域研究等を推進して国際レベルの研究を展開し、世界に向けて研究成果を発信する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 2-1-2	判定		判断理由
地域における知の中核的拠点として、学術の多様性を活かし、基盤的な研究や地域社会と連携した研究を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 福祉健康科学部の地域連携 福祉健康科学部は、福祉と医療の連携を基礎とした学術の多様性を活かし、福祉保健部を中心に連携している。県介護支援専門員協会が実施する「主任介護支援専門員研		

	<p>修」に対し、コミュニティ・ソーシャルワークの知見を基に研修の在り方等を協議、カリキュラム開発を行うとともに、研修講師を務めるなど、福祉と医療の連携を基礎とした地域包括ケアシステムを支える研究コミュニティの形成に寄与している。（中期計画 2-1-2-3）</p> <p>○ 研究環境の多様性の促進</p> <p>平成 29 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、地域企業を含む共同実施機関と連携して事業を実施している。女性研究者・技術者がライフイベントを乗り越え活躍することが容易ではない地域社会風土の中、女性リーダーが活躍する好事例を示し、地域社会の意識改革を進めている。なお、本事業は令和元年度の間評価では S 評価を得ている。（中期計画 2-1-2-4）</p>
--	--

**（２） 研究実施体制等に関する目標（中項目 2-2）**

<p><b>【評価結果】</b> 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が 1 項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 2-2-1	判定	判断理由
<p>学長のリーダーシップの下、総合大学としての本学の強み・特色を活かし競争的環境に対応できる研究実施体制を構築するためのシステムを確立する。</p>	<p><b>【3】</b></p> <p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p>	
	<p>該当なし</p>	

### Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

#### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、1項目が「進捗している」、1項目が「十分に進捗しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

#### 2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
「地域活性化の中核的拠点」大学として、地域社会のニーズに対応した地域の教育・福祉・医療・産業経済・行政を担う中核的人材を育成する。	【2】	中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえない	○ 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。 ○ また、「県内就職率の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目の達成が十分に見込まれない。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 地域社会の中核的人材の育成 COC+事業では、基盤教養科目「大分を創る科目」を充実させるとともに、新設した高度化教養科目等を開講し、社会のニーズに対応した地域の中核的人材を育成している。 「おおいた共創士」認証を希望し、高度化教養科目やインターンシップを履修した学生が自らの振り返りを言語化してポートフォリオを継続して作成すること、及び「高度化教養②」の活動に参加した学生が、体験を通じて得たキーワードをコンセプトマップとして関係づけ、その稠密度を数値化することにより学びが深化していることを確認すること、の2つの見える化を通じて学習実績の検証を行っている。これらの取組により、学外の課題現場での活動体験を通じて学生の思考が深くなっていることを検証している。(中期計画 3-1-1-1) ○ 地域振興への貢献 「利益共有型インターンシップ(地域豊じょう型)」では、福岡市の繁華街において学生と地域自治体が協働し、		

	<p>             玖珠米の科学的根拠に基づいた広報活動を実施している。              また、「地域ブランディング」によるCOC+コーディネーターの働きかけにより発足した玖珠町の大麦生産者団体一般社団法人玖珠レーベルでは、もち麦による麺づくりプロジェクトを開始し、製麺の販売に向けた試食会を実施している。（中期計画 3-1-1-2）              （改善を要する点）              ○ 県内就職率の状況              県内就職率向上の取組は実施されているが、就職率は平成 27 年度の 44.5%から令和元年度の 40.1%に減少しており、10%以上増加させるという目標に及ばない。（中期計画 3-1-1-2）         </p>		
<p>小項目 3-1-2</p>	<p>判定</p>	<p>判断理由</p>	
<p>             地域に開かれた大学として、本学が持つ教育・研究の双方の機能を積極的に開放し、産学官連携活動の成果を地域社会に還元するなど、人口減少社会など今後の地域課題の解決、地域の活性化、更には地域の創生につながる大学開放事業を実施する。         </p>	<p>【3】</p>	<p>             中期目標の達成に向けて進捗している         </p>	<p>             ○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。         </p>
	<p>             ≪特記事項≫              （特色ある点）              ○ 大分大学活き2プロジェクトの強化              地域貢献と学生の地域課題解決能力の向上を目的に実施している「大分大学活き2プロジェクト」は、審査方法や予算の執行方法の改善を図っている。令和元年度には、COC+推進機構のコーディネーター2名を審査員に加えて指導・助言体制を強化している。参加人数は、平成 28 年度は 76 名、平成 29 年度は 95 名、平成 30 年度は 51 名、令和元年度は 115 名と推移しており、平成 28 年度から令和元年度までの合計で 337 名の参加者となっている。（中期計画 3-1-2-1）         </p>		

#### IV その他の目標（大項目 4）

##### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「順調に進んでいる」であることから、これらを総合的に判断した。

##### 2. 中期目標の達成状況

###### （1） グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
異文化を理解し、相互のアイデンティティを尊重するグローバル人材を育成する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	（特色ある点） ○ 海外との研究者交流の拡大 インドネシア政府系プログラム、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）などの国際共同研究プロジェクトを活用し、異文化を理解して、相互のアイデンティティを尊重するグローバル人材を育成するため、アジアを中心に研究者が活発に交流している。海外派遣数は、第2期中期目標期間末89名に対して第3期中期目標期間4年間（平成28年度から令和元年度）で199名へ増加している。（中期計画 4-1-1-2）		

小項目 4-1-2	判定		判断理由	
<p>アジア諸国を始めとする途上国の人材育成支援、開発協力などのために国際貢献活動を一層推進する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>	
		<p>《特記事項》</p>		
		<p>(特色ある点)</p> <p>○ フィリピンでの狂犬病撲滅への協力                      SATREPS 事業に採択され、国内協力機関（長崎大学、北里大学、東北大学及び国立感染症研究所）と協力し、フィリピン政府とフィリピン国内から狂犬病撲滅を目指した取組を行っている。平成 30 年度と令和元年度に計 4 名の教員をフィリピン事務所に派遣・駐在させ、フィリピン側人材育成を含め研究を開始している。（中期計画 4-1-2-1）</p> <p>○ 内視鏡分野の国際的人材育成                      学長のリーダーシップのもと、内視鏡分野を中心としたアジアの医療人材育成に貢献するため、多くの大学・病院と協力して各国へ医師を派遣し指導している。また、この取組を組織化し、学長が中心となって「一般社団法人アジア医療教育研修支援機構（AMETS）」を設立している。（中期計画 4-1-2-1）</p>		



《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
<b>大項目1</b> <b>教育に関する目標</b>	<b>【3】</b>	順調に進んでいる	3.00 うち現況分析結果加算点 0.00
<b>中項目1-1</b> <b>教育内容及び教育の成果等に関する目標</b>	<b>【3】</b>	順調に進んでいる	3.00
<b>小項目1-1-1</b> 地域社会のニーズに対応した次代を担う人材養成を行うとともに、グローバルかつインクルーシブな視野をもって高い専門的知識を自立的・創造的に活用できる人材を養成する。	<b>【3】</b>	進捗している	2.33
<b>中期計画1-1-1-1(★)</b> 【1】グローバルかつインクルーシブな視野を持ち地域・社会で活躍する人材を養成するために、平成28年度から外部英語試験を全学で活用するとともに、平成27年度に採択された地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)を踏まえ、教養教育における地域志向科目を必修化する。また、平成32年度までに各学部教育プログラムに柔軟に対応できるような学事暦を導入し、社会のグローバル化、ダイバーシティ化に対応して、地域社会の課題、多様な文化、人々との相互理解に資する教育プログラムを実施する。	<b>【2】</b>	中期計画を実施している	
<b>中期計画1-1-1-2</b> 【2】地域産業の発展・イノベーションの創出や人々の暮らしに貢献できる知識と技術、研究能力を有し、グローバルかつインクルーシブな視野で新たな課題の発見と解決ができる人材を養成する教育課程を整備する。また社会人の学び直しへの貢献度を高めるため、社会人学生・受講生、企業からの派遣者等の受入れ数を10%以上増加させる。	<b>【2】</b>	中期計画を実施している	
<b>中期計画1-1-1-3</b> 【3】学生の能動的・主体的学習を促し、学習意欲向上や学生のキャリアパスを見据えた教育課程を担保するため、能動的学修(アクティブ・ラーニング)を取り入れた授業比率を80%以上に高める。	<b>【3】</b>	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
<b>中期計画1-1-1-4</b> 【4】改組後の教育学部において、教職への適性を重視した方式に入試を変更するとともに、児童生徒のICT(Information and Communication Technology)活用能力やアクティブ・ラーニングを支援しうる力量をもった義務教育教員を養成するための科目の新設等を行う。また、地域の学校現場での学習サポートを通して子どもの学習状況を理解する活動や附属学校における教育実習を充実させる等のカリキュラム改革を行うことに加えて、複数の指導教員が、1年次から卒業まで通して、個々の学生の特性を踏まえた修学指導や生活指導、教採指導を行う「メンタリング・コーチングシステム」を構築・実施することにより、教職への意欲付けを継続的に行う。これらの取組により、教員就職率(臨時採用を含み、大学院進学者は除く)を80%以上にする。	<b>【3】</b>	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
<b>中期計画1-1-1-5</b> 【5】大分県内唯一の教員養成系学部として、地域に密接した教員養成を行うため、県内高校への広報を充実することで大分県出身者の入学者を増加させるとともに、「小学校教育コース」において小学校重点化のカリキュラムや「地域の教育課題」等の授業科目を新設する。さらに地域の学校現場での学習支援ボランティア活動を実施することで、大分県小学校の教員採用試験の受験率・合格率を増加させる。これらの取組により、大分県小学校教員の需要に対応し、大分県小学校教員における本学の占有率を55%にする。	<b>【1】</b>	中期計画を十分に実施しているとは言えない	
<b>中期計画1-1-1-6</b> 【6】新たに設置する教職大学院において、教職大学院における研究者教員と実務家教員が協働して行う、学校現場と大学との往還を通して具体化する課題解決型の教育、教員としての地域課題解決能力を向上させる教育、フィールドワーク、ロールプレイ、事例研究、アクションリサーチなどの実践的方法を取り入れた互いに学び合う教育により教職への意識と実践的指導力を向上させ、その修了者(現職教員を除く)の教員就職率85%を確保する。	<b>【3】</b>	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
<b>中項目1-2</b> <b>教育の実施体制等に関する目標</b>	<b>【3】</b>	順調に進んでいる	3.00
<b>小項目1-2-1</b> 社会の変化や人材に対するニーズの変化に対応して、教学体制の改革を行い、学修評価を通じて教員の教育力向上、教育の質保証、教学支援の充実を推進する。	<b>【3】</b>	進捗している	2.25
<b>中期計画1-2-1-1</b> 【7】学修やキャリア形成を支援するため、学修ポートフォリオ等を全学的に実施する体制を平成29年度までに整備する。併せて、教育の水準・質を保証し、学修成果の可視化を進め、社会が求める人材を育成するため、教学に関するポリシーに基づいた体制を平成31年度までに整備するとともに、学修評価を活用してPDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを確立し、改善する。	<b>【2】</b>	中期計画を実施している	

# 大分大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画1-2-1-2	【8】学部、大学院を通じて多様な価値観、俯瞰的能力を育成するため、高度な教養教育、全学共通カリキュラムを展開するための体制を平成29年度までに整備する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-2-1-3	【9】学術情報拠点など学内共用施設を活用し、専門・教養教育や学生の主体的・能動的学修を支援する体制を強化する。そのため、教職員がラーニング・コモンズ、ICT等の高度化に対応した教育支援システムの習熟を図るFD (Faculty Development)・SD (Staff Development) 活動を進め、教員の参加者数を平成29年度までに全体の75%以上に高める。また能動的学修や実践的教育の教育プログラムを実施するための施設整備を行う。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-2-1-4	【10】改組後の教育学部において、教師としての実践的指導力の育成・強化を図るため、学校現場で指導経験のある大学教員を第3期中期目標期間末には20%を確保する。また、指導経験のない大学教員に対しては、内地留学としての初等中等学校への派遣、公立学校や附属学校等における授業の実施、学校の教科書を用いた模擬授業を行うFDなどの研修を実施する。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-3	<b>学生への支援に関する目標</b>	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-3-1	学生の多様性と主体性を踏まえた学生の学びを支える支援体制を強化するとともに、学生の正課外活動への支援を推進する。	【3】	進捗している	2.33
中期計画1-3-1-1(★)	【11】学生の多様性を踏まえ、キャリア形成に資するセミナー等の開催や、低学年からのインターンシップ等の積極的な導入を進めるとともに、学生が主体的に進路選択・決定が行えるよう、企業や事業所、官公庁と連携したセミナーを充実させ、参加企業数を第3期中期目標期間中に第2期中期目標期間末に比べて20%以上増加させる。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-3-1-2(★)	【12】学生が健康的で十分にその能力を発揮できるように、福利厚生の実施、経済支援の拡充、正課外活動への支援、並びに日常的な「学び」のサポートを充実させるとともに、障がいのある学生に対し、施設設備の改修を進める。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-1-3	【13】本学の特色である保健管理センターと「びあROOM」との機能的な連携により、学生の元へ出向いて対応する「アウトリーチ型」の心身の健康面での支援、学修面での支援を進める。また、各学部の教務面・学生生活面との一体的な連携を強化した学生支援体制を充実するために、学生並びに学内外専門家による評価を踏まえたPDCAサイクルを確立する。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-4	<b>入学者選抜に関する目標</b>	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-4-1	学習意欲が高く主体的・能動的に行動する優秀な学生を確保するとともに、多様な人材を受け入れるために、アドミッション・ポリシーに基づいて多面的、総合的な評価、選抜方法を構築する。また、主体性、協働性をもつ高校生を育成するため、高大連携推進事業を更に強固に推進する。	【3】	進捗している	2.33
中期計画1-4-1-1(★)	【14】多様な能力をもった学生の受入れ、選抜方法の妥当性・信頼性の検証及び改善、高大接続をより一層推進するため、平成30年度までに、入学企画支援センターを発展的に改組して、アドミッション・オフィスを設置する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-4-1-2	【15】アドミッション・ポリシーに基づき、能力・意欲・適性を多面的に評価する入学者選抜方法を確立して、平成30年度に公表し、この方法による入学者選抜を平成32年度から実施する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-4-1-3(★)	【16】国の『高大接続改革実行プラン』に示された高等学校教育と大学教育の連携強化を実現するため、大学レベルの教育に高校生が触れる機会を大分県内の全ての高等学校に提供する。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目) 中期目標(中項目) 中期目標(小項目) 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
大項目2 <b>研究に関する目標</b>	【3】	順調に進んでいる	3.00 うち現況分析結果加算点 0.00
中項目2-1 <b>研究水準及び研究の成果等に関する目標</b>	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目2-1-1 本学の強みとなるミッションの再定義に掲げた重点領域研究等を推進して国際レベルの研究を展開し、世界に向けて研究成果を発信する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-1-1-1(★) 【17】本学の強みである「低侵襲医学研究」、「国際感染症研究」、「統計科学等基礎研究」、「生命・材料化学研究」等、ミッションの再定義に掲げた先端的な研究を重点領域研究として、戦略的に研究費支援を行い、その研究成果を論文発表や研究セミナー等で地域社会・国際社会に発信し、論文数・国際共著率、共同研究件数、科研費採択率等について第2期中期目標期間末に比し、第3期中にそれを上回るようにする。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-1-2(★) 【18】分野や領域を越えた研究者の連携によるイノベティブな研究を推進するため、全学研究推進機構を中心に経験豊富なシニア研究者が支援を行い、若手研究者等を国際的な学術コミュニティー(学会等)における研究リーダーに育成する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目2-1-2 地域における知の中核的拠点として、学術の多様性を活かし、基盤的な研究や地域社会と連携した研究を推進する。	【3】	進捗している	2.25
中期計画2-1-2-1(★) 【19】国の指定した地域活性化総合特別区域としての東九州メディカルバレー構想(医療を中心とした東九州地域産学官連携)の特色を活かした「医工連携研究」、多様な地域産業に関連する「エネルギー関連技術開発・研究」、「ビッグデータを活用するIT技術研究」、「食品化学研究」及び「サステナブルな建築・地球環境創成研究」等に取り組み、地域活性化の中核的研究拠点としての機能を強化する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-2-2 【20】地方自治体などと連携・協力し、「地域の福祉課題や教育課題に関する研究」や「地域経済に関する研究」に取り組み、まちづくり、地域の活性化の向上に寄与する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-2-3(◆) 【21】福祉と医療の連携を基礎とした地域包括ケアシステムを支える研究コミュニティーを形成し、文系医系融合型の新たな研究領域を創生する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-2-4 【22】イノベーションをもたらす基盤的な研究や若手研究者・女性研究者の活動に対し、重点的な研究費の配分、男女共同参画事業等との連携、URA (University Research Administrator) チームによる研究戦略支援等を行い、研究機関及び企業等との共同研究・受託研究の合計件数を第2期中期目標期間末に比し、10%以上増加させる。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中項目2-2 <b>研究実施体制等に関する目標</b>	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目2-2-1 学長のリーダーシップの下、総合大学としての本学の強み・特色を活かし競争的環境に対応できる研究実施体制を構築するためのシステムを確立する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-1-1 【23】優れた研究を推進するため、URAチームが中心となって国内外の研究資金情報の収集、分析、発信を行うとともに科研費、外部研究資金等申請書のブラッシュアップ、ピアレビューを行うなど、採択に繋がる効果的な支援体制を構築する。	【2】	中期計画を実施している	

大分大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
<b>大項目3</b> <b>社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</b>	<b>【2】</b>	おおむね順調に進んでいる	2.50
	なし	—	—
小項目3-1-1 「地域活性化の中核的拠点」大学として、地域社会のニーズに対応した地域の教育・福祉・医療・産業経済・行政を担う中核的人材を育成する。	<b>【2】</b>	十分に進捗しているとはいえない	1.67
中期計画3-1-1-1 <b>【24】</b> 九州や大分県に関する学生の知識・理解の深化に資する科目を整備するなど、地域の自然や社会・文化等地域課題に関する教育・研究を充実することにより、県内定着志向を高める。	<b>【2】</b>	中期計画を実施している	
中期計画3-1-1-2 <b>【25】</b> 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)を踏まえ、県内の公私立大学等や地元企業・経済団体等、大分県・市町村との協働により、地域が求める人材を育成するための教育改革を実施し、地域の課題解決に向けたリーダーを育成するとともに、地域産業の振興、雇用の創出に寄与し、県内就職率を第3期中期目標期間末に第2期中期目標期間末に比べ10%以上向上させる。	<b>【1】</b>	中期計画を十分に実施しているとは言えない	
中期計画3-1-1-3(★) <b>【26】</b> 包括協力協定を締結している大分県や市町村、地元企業との連携により、中小企業の経営戦略から自治体の地域政策に至る地域再生の社会ニーズに応えるため、地域経済社会に関する総合的な研究を組織的に実施するとともに、防災シンポジウム等の安全安心社会形成のための取組を地域社会と協働して実施する。	<b>【2】</b>	中期計画を実施している	
小項目3-1-2 地域に開かれた大学として、本学が持つ教育・研究の双方の機能を積極的に開放し、産学官連携活動の成果を地域社会に還元するなど、人口減少社会など今後の地域課題の解決、地域の活性化、更には地域の創生につながる大学開放事業を実施する。	<b>【3】</b>	進捗している	2.00
中期計画3-1-2-1 <b>【27】</b> 「防災シンポジウム」や「Jr.サイエンス」事業等、地域に開かれた本学の社会貢献活動として実施している大学開放事業においては、これまでより更に多くの地域住民に大学の教育・研究活動の成果の一端を紹介・提供することができるよう、地域住民のニーズを踏まえつつメニューを点検・整備することにより、大学開放事業数を第3期中期目標期間末に第2期中期目標期間末に比べ、25%以上増加させる。また、地域住民に高等教育レベルの学習機会や「学び直し」の機会を提供する公開講座・公開授業数については、ニーズに対応し全学連携の下に第3期中期目標期間末に第2期中期目標期間末に比べ、10%以上増加させる。さらに、地域貢献と学生の地域課題解決能力の向上を目的に実施している「大分大学活き2プロジェクト」等の学生の主体的な取組に対する指導・助言を充実し、参加学生数を増加させる。	<b>【2】</b>	中期計画を実施している	
中期計画3-1-2-2 <b>【28】</b> 産学官連携で創出される知的財産について、セミナー等を開催し学内外の意識を高める取組を組織的に実施する。	<b>【2】</b>	中期計画を実施している	
<b>大項目4</b> <b>その他の目標</b>	<b>【3】</b>	順調に進んでいる	3.00
<b>中項目4-1</b> <b>グローバル化に関する目標</b>	<b>【3】</b>	順調に進んでいる	3.00
小項目4-1-1 異文化を理解し、相互のアイデンティティを尊重するグローバル人材を育成する。	<b>【3】</b>	進捗している	2.33
中期計画4-1-1-1(★)(*) <b>【29】</b> 新たに策定する「国際交流推進戦略」に基づき、アジア諸国を中心に世界各国から留学生の戦略的な受入れを推進し、留学生平均在籍者数を第2期中期目標期間末に比し、15%以上増加させる。また、英語による授業科目を増やし、受入留学生と日本人学生との交流のための科目を設けて充実させ、海外への留学に繋げるとともに、短期語学研修等の参加者を第2期中期目標期間末に比し、50%以上増加させる。	<b>【2】</b>	中期計画を実施している	
中期計画4-1-1-2 <b>【30】</b> グローバル化を推進するため、研究者(大学院生を含む)の海外派遣数及び海外の大学等からの受入れ数を第2期中期目標期間末に比し、10%以上増加させる。	<b>【3】</b>	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
	中期計画4-1-1-3(★) 【31】欧米に加えて、更に東南アジア、アフリカと、経済活動のグローバル化に関する交流を展開し、国際シンポジウム等により成果公開を実施する。	【2】	中期計画を実施している
	小項目4-1-2 アジア諸国を始めとする途上国の人材育成支援、開発協力などのために国際貢献活動を一層推進する。	【3】	進捗している 3.00
	中期計画4-1-2-1(★) 【32】アジア諸国を始めとする途上国への貢献のため、国の指定した地域活性化総合特別区域としての東九州メディカルバレー構想等により、医療分野での人材育成支援、開発協力などを行う。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている

- ※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。  
 (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)  
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」  
 (\*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。  
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。